

JELA NEWS

ジェラニュース 第56号

2021年12月15日 発行

発行責任者 渡辺 薫

一般財団法人 JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



インド・コルカタ
オンライン・スタディーツアー

2022年2月開催予定!

詳細はP8 (裏表紙) をご覧ください。

「一般財団法人 JELA」としてスタートしました!

この号にはこんな記事が……「財団法人の抱負」古屋 四朗 理事長 (P2) / JELA評議員・役員人事 (P2) / ワークキャンプ・オンライン同窓会 (P3) / 世界の子ども支援: カンボジア学校建築 (P2~3) / 難民奨学生の声: 「調理師を目指すRVEP第一期生」、 「戦争で破壊された国を再建したい」 Alhafez Aghiad / 特集: ディアコニア奨学金「奨学金のおかげで学業に専念」光畑 恵子、 「人生に希望の光を下さったJELAと両親に心から感謝」植松 滋英 (P4~5) / クリスマス&ニューイヤー オンライン・チャリティコンサートのご案内 (P6~7) / インド・オンライン・スタディーツアー2022募集開始 (P8) / 寄付者一覧 (P8) / 編集後記 (P8)

財団法人の抱負

一般財団法人 JELA
古屋 四朗 理事長



今年からJELAは財団法人になりました。財団法人とは、財産を法人にした団体です。100年以上前から、アメリカのルーテル教会は日本に宣教師を送ってきました。宣教師の費用や住宅は、すべてアメリカの教会の献金でした。しかし1980年代になると、宣教師は世界のもっと他の地域に送られるようになりました。そこで、日本では宣教師住宅の土地を売却して、USファンドと日本ファンドのふたつの資産を作りました。USファンドはアメリ

カで運用し、現在も宣教師の費用をまかなっています。日本ファンドがJELAの基盤です。JELAはこれをもとに収益事業を始めるとともに、難民シェルターの建設や奨学金などの公益事業を拡大しました。収益事業と資産運用が、財団法人JELAの運営基盤です。財団法人は財産を法人にした団体と書きましたが、もちろんそれを動かすのは人です。運営は、評議員会と理事会が担います。評議員、理事、監事などの役員には、JELAの理念を真に共有して下さる有識者を、ルーテル教会に限らずお願いしています。JELAには、常勤職員は7人しかいません。それで、日本、カンボジア、イ

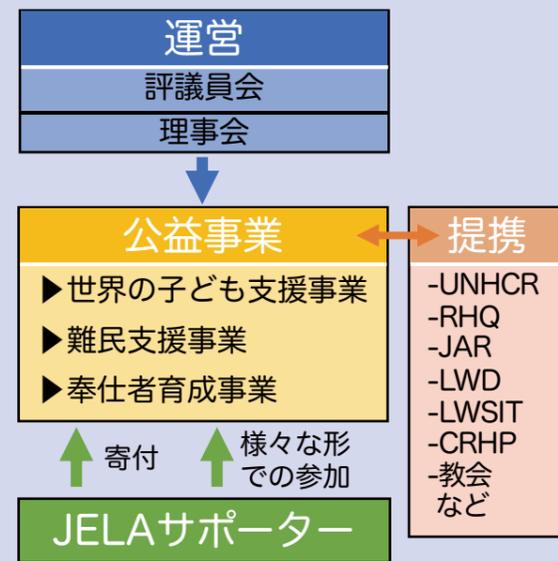
ンドなど国内外に多彩な事業を展開できるのは、直接働く事業だけでなく、様々なパートナー団体との連携ネットワークのおかげです。私たちはこれを「JELAモデル」と呼んでいます。これからJELAで増やしたいのは、「JELAサポーター」です。JELAサポーターは、「キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人々に仕える」というJELAの理念に共感して、継続的な寄付で活動を支えてくださる方々です。また、JELAのワークキャンプに参加したり、難民への日本語支援ボランティア、特定の専門知識など、いろいろな形で参画していただきたいのです。あなたもぜひ、JELAサポーターになってください。

【一般財団法人JELA 評議員】

- 明比 輝代彦 (日本福音ルーテル教会 引退教師)
- 滝田 浩之 (日本福音ルーテル教会 事務局長)
- 坂本 千歳 (日本福音ルーテル教会 教師)
- 中川 浩之 (株式会社東急エージェンシーインターナショナル 元取締役)
- 谷口 美樹 (熊本家庭裁判所家事調停委員・法務省委嘱人権擁護委員)
- 山内 恵美 (社会福祉法人ベタニヤホーム 職員)
- 中嶋 裕一 (国際基督教大学高等学校 校長)
- 荒川 朋子 (学校法人アジア学院 校長)
- 小林 毅 (特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 常務理事)

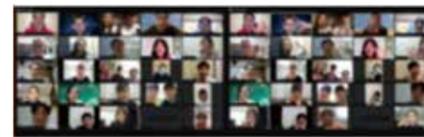
【一般財団法人JELA 理事会構成役員】

- 古屋 四朗 (理事長、学校法人草苑学園 総務・財務部長)
- 森下 博司 (常務理事、学校法人ルーテル学院 監事)
- 松岡 俊一郎 (常務理事、日本福音ルーテル大岡山教会 牧師)
- 渡辺 薫 (理事、一般財団法人JELA事務局長)
- 浅野 直樹 (理事、日本福音ルーテル教会 世界宣教主事)
- 杉本 洋一 (理事、日本福音ルーテル熊本教会 牧師)
- 深澤 理香 (理事、特定社会保険労務士)
- 青木 孝士 (理事、明治大学 研究・知財戦略機構 財務戦略研究所 客員研究員)
- ローウェル・グリテベック (理事、Ph.D.、大学教授 [国際開発・国際ビジネス])
- 安藤 淑子 (監事、世界保健機関 [WHO] 元財務担当官)
- 池永 清 (監事、東京熊本県人会理事、学校法人九州学院元評議員)



ワークキャンプ・オンライン同窓会2021 世代を超えて30人超が集う

テーマ聖句：「神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。」(フィリピの信徒への手紙3章14節)



オンライン同窓会の様子

コロナ禍による自粛が続く8月下旬、JELAは、「ワークキャンプ・オンライン同窓会2021」を開きました。同窓会には、JELAの初のキャンプとなった2003年のアメリカグループワークキャンプ参加者から、2020年カンボジアワークキャンプの参加者まで、幅広い世代から30人超の方が集まってくれました。

今回の同窓会では、キャンパーが互いに言葉を交わし、語り合う実際のキャンプの夜のような時間を持つことをめざしていました。小グループに分かれての「ディスカッションタイム」では、今回同窓会のテーマ聖句『フィリピの信徒への手紙3章14節』を受けて、キャンプでの出来事や経験の分かち合いだけでなく、それが2021年に生きる自身とどのように繋がっているか、そして神様からの「賞」を得るためにこれからどう生きていきたいかなどを、互いに話し合いました。

また、会の終わりには日本と同じく困難の中にあるアメリカ・インド・カンボジアといったキャンプ開催地の現状報告や、ご協力をいただいた現地の学校や病院、団体など、それぞれの現在の様子や祈祷課題についても参加者に共有しました。

同窓会参加者からの声をご紹介します。

Q1：今回のオンライン同窓会の感想

・参加した年のキャンパーと久しぶりに顔

を合わせて話したことはもちろん、他の年のキャンプに参加していた方とも話せてよかった。また、各キャンプのテーマや思い出話を具体的に聞くことが出来たのもよかった。(10代学生)

・キャンプ参加時からそれぞれ歳を重ねて、当時とはまた違った観点から話ができ興味深かった。(20代学生)

・コロナ禍で困難の中にあるワークキャンプ開催地について、その近況報告や祈祷課題を同窓会で聞くことができ良かった。(20代社会人)

Q2：小グループの話し合いについて

・小グループには、私と同じキャンプに参加した子やスタッフの方が集まっていた、共通認識のキャンプで緊張したことや、感動したこと、神を感じた瞬間などを共有することができた。また、キャンプで生活を共にしたメンバーが、今どんな生活をしているのか、何を頑張っているのかを知ることができて、コロナ禍の中でも強い繋がりを確認できた。(10代学生)

Q3：テーマ聖句の、神様からの「賞」について

・「神様との関係そのものが賞である」という意見が私にとっては印象的だった。クリスチャン人口の少ない日本で、神様を信じて祈ったり、賛美したり、奉仕したり出来ているのは、当たり前のことではなく、特別なことだという分かち合いが心に残っている。(10代学生)

・分かち合いの中で、「賞」とは神様の

恵みや愛で、それは一時的なものではなく絶えず私たちが貰い続けているのだと話した。その上で、ワークキャンプに参加しようと思った意思や、つながり続けたいという想いはその副賞のようなものなのかもしれないという話もあった。(20代学生)

Q4：今後の同窓会のテーマについて

・ワークキャンプ卒業生の多くは大学で勉強したり、仕事に就いたりしていると思うので、今自分が1番時間を使っているもの、例えば大学生なら勉強、社会人なら仕事などが、どのように社会奉仕に繋がるかを具体的に考える時間があると面白い。(20代学生)

・災害が起きたら実際にどんなことができるか、意見・情報交換をしたい。(20代学生)

・なかなか外国を訪れるのが難しいので、気になる他国の文化や政治、国際問題などについて同世代で学び、意見交換をしてみたい。(20代社会人)

残念ながらJELAは、今年もワークキャンプや対面での同窓会を開催することができませんでした。しかし中でも、ここで生まれた大切な繋がりを保ち続けながら、参加者同士が互いに祈り励まし合っていくサポートができたなら強く願っております。来たる2022年は、こうした同窓会や新しいかたちでのワークキャンプ開催に向けてより一層励んで参りますので、今後ともJELAへのご協力とご支援、そして何よりお祈りをよろしく願っています。

世界の子ども支援

カンボジア・クナウカンボン村にプレスクールを建築中 近隣の3村から278人が通う見通し

JELAは世界の子ども支援事業でカンボジアを支援しています。今年もカンボジアのパートナー団体Life With Dignity (=LWD、尊厳ある生活)を通じて、カンボジアの農村にプレスクール(未就学児が通う学校)を建築しています。

今年の建設現場は、スベイレエン州クナ

ウカンボン村です。この村には109世帯、201家族、人口903人(内女性499人)が暮らしています。ほとんどの世帯は縫製業労働者で、生活は厳しく共働きの家庭が多く、祖父母が子どもの世話をしている地域です。

村にはこれまでもプレスクールがありましたが、古くて狭いため一度に利用でき

る子どもの数は20人ほどでした。今回、JELAの支援で建築中のプレスクールはサイズも大きくなるため、近隣の3つの村から0歳~5歳の子供たち278人(女兒96人)が利用できるようになる見通しです。

村には今夏、LWDスタッフや村人らによるプレスクール建設委員会が設置され

ました。建設委員会では、JELAの支援に頼るだけでなく自助努力で目標額US500ドルを設定して、資金を出し合いプレスクールの維持管理に備えて行きます。プレスクールのための基金は、10月12日までにUS400ドルが集まっており、目標金額までUS100ドルとなっています。

同地区の幼児教育事務局担当で、プレスクール建設設計から関わっているChrek Vuthy (チェレク・ヴティ)氏は、

建設委員会のメンバーとしても資金を募り、材料調達や技術サポート依頼にも貢献しています。同氏は、「JELAのプレスクール建築支援に心から感謝します」と謝意を伝えてくれています。

JELAとLWDは共同で、カンボジアの将来を担う子どもたちのために、プレスクールの支援を継続していく方針です。カンボジア支援のために、引き続きお祈りとご支援をいただけましたら幸いです。



プレスクール建設予定地



プレスクール建設・資金調達のための協議

難民奨学生の声

JELAが実施する難民のための2つの奨学金制度（RVEP、フィロクセニア奨学金）によって勉強する奨学生を紹介します。

日本で多様な食文化に触れ 調理師を目指すRVEP第一期生



Belle Dinerさんが作った料理

JELAとUNHCR（国連難民高等弁務官）駐日事務所は共同で難民の専門学校への進学を支援する難民専門学校教育プログラム（Refugee Vocational Education Programme=RVEP）を2020年に開始しました。このRVEPの第一期生となるBelle Dinerさん（仮名）が、10月1日に調理師を養成する専門学校に入学しました。Belle Dinerさんにお話を伺いました。

Q. 調理師を目指している理由は

料理、デザイン、アートには関係があります。私の夢はクリエイティブな調理師になることです。調理の世界を大きく広げたいです。子どもの時から料理を作るのが好きでした。本格的に料理が好きになったのは、難民として来日してからです。日本にはおいしい料理が沢山あります。日本料理をはじめ、中華料理、その他のアジア料理、西洋調理などに

色々な種類の料理があることに非常に興味を持ちました。そして専門的に勉強してみたいと思いました。調理師になるための専門学校を選んだ理由も、総合的な料理の勉強ができること、様々なジャンルの料理の知識やテクニックを学ぶことができるからです。

ただ調理師になるための専門学校は学費も高く、何かよい進学制度や奨学金制度があればと思い、定期的に

UNHCRのホームページを見ていました。そこでRVEPのことを知り、JELAに連絡しました。今は「プロの調理師」になることを目標に勉強と調理実習に励んでいます。休みの日には図書館で勉強したり、かつば橋道具街（調理器具や食器が買える商店街）に行ったりして楽しんでいます。

Q. 将来の夢は

学校を卒業後、正社員として就職して生活を安定させて、職業人として働く経験をもっと積みたいと思っています。「うまい、おいしい料理」を作り、そして皆さんが笑顔になってくれれば嬉しいです。「食育」への志もあります。

Q. 皆さんへメッセージはありますか

本当にありがとうございます。RVEPの支援によって夢だった料理の勉強をすることができるようになりました。心から感謝をしています。将来の夢に向けて、まずは専門学校での勉強を一生懸命頑張ります！

どうすれば博士課程で学ぶことができるかを模索していた時に、JELAが難民支援奨学金で難民の進学支援をしていると知り、私は早速応募することにしました。JELAの支援を受けられることが決まり、私は足利大学の博士課程で新しい建材やコンクリートの性質について研究しています。この貴重な学びは、私の将来に新しい扉を開きます。それは、戦争で破壊された国を再建するのに役立つと信じているからです。

JELAのサポートは私に対するものですが、実際は私一人だけをサポートしているのではなく、私の家族全員をサポートしてくれているに等しいのです。私たち家族はJELAの支援によって夢を実現するために前進することができるからです。この感謝の気持ちをどのように表したらいいかわかりません。私はJELAの素晴らしさ、寛大さに応えるために、地域社会で良い人となり、私の知識と研究の成果を世界に伝えるために最善を尽くしていきます。

ありがとう、JELA！

「戦争で破壊された国を再建したい」 博士課程でコンクリートの研究を 続けるAghiad（アギアド）さん



アギアドさんご一家

毎年JELAは、難民や難民認定申請中の方の進学や学びをサポートするために給付型奨学金「フィロクセニア奨学金」を通じて、数名の方を支援しています。今年の4月から足利大学大学院博士課程に進学したAlhafez Aghiad（アギアド・アルハフェズ）さんに寄稿していただきました。Aghiadさんはシリア出身で戦禍を逃れて家族で日本にやってきました。戦争で破壊された祖国を再建するためにコンクリートの研究を続けています。

私は子どもたちを戦争から守るために逃げなければならず、非常に困難な日々を過ごしました。やがて日本政府とJICAの支援を受けて日本に来日し、足利大学の修士課程で学ぶ機会を与えていただきました。私たち家族は日本で再び成長するチャンスを得たのです。足利大学では、土木工学修士号を取得しましたが、土木工学で学んだコンクリートの耐久性についての研究を極めるためには博士課程に進む必要がありました。ただ問題もありました。それは大学の年間授業料が非常に高く、家族を養わなければならない私にはそれを支払うことは不可能だったのです。

私はシリアでエンジニアリング会社を経営しており、家族と一緒に素晴らしい生活を送っていました。2011年に戦争が始まったことで、私たち家族はすべてを失ってしまいました。幸せな生活は一変し、夢や希望は悪夢に変わってしまったのです。

JELAディアコニア奨学金特集

JELAでは、給付型奨学金「ディアコニア奨学金」によって毎年数名の方を支援しています。

「ディアコニア」（διακονία）とは、ギリシア語で「奉仕」という意味の言葉で、教会においてはキリストの愛をもってお互いに仕えあうこと、転じて、困窮する人々や立場の弱い人々を支える働きをすることを指します。

ディアコニアの精神が国内外でますます求められている時代に、奉仕者を志し勉強したり経験を積んだりすることを希望する方々を支援したい、という思いで、当奨学金制度をこのような名称で呼ぶことにしました。

今回は、今年の4月から奨学生となったルーテル学院大学の光畑恵子さん、そして今年の3月に神奈川大学を卒業した植松滋英さんにご寄稿いただきました。

ディアコニア奨学金の概要

- ・給付額：年間最大120万円（退学等の場合を除き返済不要）
- ・給付期間：最長4年間
- ・対象者：次のいずれかに該当し、かつ学費等の支払いが経済的に困難である者
 1. キリスト者としての成長を目的とし、国内外の研修・大学・専門学校（以下「大学等」という。）において学ぶ者。
 2. 社会と人々に仕えることを目的とし、大学等において学ぶ者。
 3. 国際社会への貢献を目的とし、大学等において学ぶ者。



光畑恵子さん

奨学金のおかげで学業に専念
JELAの愛を多くの人に伝えていきたい
光畑 恵子

私は現在シングルマザーとして、2人の娘と暮らしております。将来、公認心理師の資格を取得して、こころに悩みを抱える方々を支援することや、心理学の知識・経験を持って広く社会に貢献することを目標としております。そのため昨年の4月に、心理学を学べるルーテル学院大学に編入学しました。同校ではキリスト教や福祉について学ぶとともに、こころの支援を必要としている方々を援助するための、さまざまな理論やカウンセリング技法などを学んでおります。

コロナ禍で困難を感じる中、大学の学費につきまして、幸いJELAの奨学金のご支援を受けることができました。お陰様で私は安心して学業に専念でき、また娘たちも健やかに過ごすことができ、大変感謝いたしております。

私は奨学生としてご支援いただくことを通して、JELAの皆様への尊い活動に触れるという体験をすることができました。国内外で奉仕活動を行い、キリストの愛を実践されている皆様への愛を、自身も受け取ることができました。

いずれ心理職に従事できるようになりましたら、こころに悩みを抱える方々の支援を通して、JELAの皆様の愛を、私自身も少しでも多くの方々に届けてゆきたいと考えております。

人生に希望の光を下さったJELAと
両親に心から感謝
植松 滋英

神奈川大学の外国語学部を卒業し、約7か月が経ちました。今年も世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るいましたが、ありがたいことに特に体調を崩すことなく日々を過ごしており、ようやく仕事にも慣れてきました。

私は世界中の人々の健康に携わりたいという願いから、グローバルに活動する製薬企業に勤めております。そのため、社内にはネイティブスピーカーも多く、多種多様な言語が聞こえてくる日もあります。私もそんな先輩社員に近づけるよう、語学力や医学に関する知識をもっと身につけることが今の目標です。

このような日々を送れているのも、JELAからのご支援と、その繋がりをつくってくれた両親のおかげです。JELAからのご支援があって、私は行きかかった大学に通え、かけがえのない時間を過ごすことができました。そして将来の選択肢も広がり、現在の仕事にも就くことができました。

私は、人生に希望の光をくださったJELAと両親に心から感謝しています。日々の生活においても、人とのコミュニケーションや感謝を大切にしています。そして、次は私が世界中の人々に貢献していけるよう、目の前の仕事に一所懸命に向き合っています。



植松滋英さん

今冬も開催！ クリスマス&ニューイヤー オンライン・チャリティコンサートのご案内

この冬、JELAは2回目となるクリスマス&ニューイヤー・オンライン・チャリティコンサートを開催いたします。昨年に同様、ライブ感迫る音楽家のパフォーマンスを、JELA公式YouTubeチャンネルにてプレミア公開でお楽しみいただけます。

今回は、ピアノの松井花枝さん*とヴォーカル&ギターデュオのHanaWutaさんが昨年に引き続きご出演くださるのに加え、ソプラノの月下愛実さん、オルガンの加藤麻衣子さん、サクソ&フルートのスティーブ・サクソさん、フルートの安音めぐみさんを新たにお招きして、合計6組の多彩な音楽家の方々によるコンサートシリーズをお送りいたします。

以下、コンサート動画の公開日程、各演奏者のプロフィール、コメントをご紹介します。ぜひコンサートのご視聴と、JELA公式YouTubeチャンネル（アクセス方法はP7下部参照）への登録をお願いいたします。

※本誌発行日程の都合により、松井花枝さんは前号でもご紹介いたしましたが、コンサートプログラムはJELAのYouTubeチャンネルにてアーカイブ動画としてご覧いただけます。

JELA クリスマス & ニューイヤー オンライン・チャリティコンサート2021→2022

『JELA公式YouTubeチャンネル』にてプレミア公開!!	
11月	
27日(土)	12:00~ 松井花枝 (ピアノ/クラシック) アラベスク 第1番(ドビュッシー) アラベスク(シューマン) カプリッチョよりアリオソ(バッハ)、 教会讃美歌、ほか
12月	
4日(土)	12:00~ 月下愛実 (ソプラノ/声楽) 詩篇27篇 O holy night Amazing Grace
11日(土)	12:00~ 加藤麻衣子 (パイプオルガン) Joy to the worldによる賛歌(デイヴィッド・ラスキー) フーガト短調、いざ来ませ、異邦人の救い主 最愛のイエスよ、我らここに集いて、トッカータとフーガ二短調、ほか(ヨハン・セバスチャン・バッハ)
18日(土)	12:00~ スティーブ・サクソ (サクソ・フルート/ジャズ) Silent Night のボサノヴァ・ジャズアレンジ Go Tell It on the Mountain ジャズアレンジ、ほか
25日(土)	12:00~ 安音めぐみ (フルート&ピアノ) クリスマスキャロル組曲 ひらさかざらう アヴェマリア いつくしみ深き、ほか
2022年 1月	
15日(土)	12:00~ HanaWuta (ヴォーカル&ギター・ポップス) Sunrise、それだけで、Rainy、ほかオリジナル曲 You got a friend (Carol King/James Taylor) ほか

松井 花枝 HANAÉ MATSUI

●プロフィール

3歳からピアノを始める。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学ピアノ科卒業。スイス・チューリヒ芸術大学院音楽科 Konzert Diplom 修了。PIARAピアノコンクールシニア部門第1位最優秀賞、他多数受賞。ピアノソロを徳丸聡子、Konstantin Scherbakov、Yulianna Avdeeva、大野真嗣、各氏に師事。ヨーロッパスタイルサロンコンサートをはじめ、国内外の著名なアーティストと共に勢力的に演奏活動を行っている。東京・麻布にて大人のためのヨーロッパスタイルピアノレッスン・Skypeレッスンをスタート。2019年夏、カメラータ・トーキョー井阪紘プロデュースによる初ピアノソロCD発売。



●ご本人からのコメント

今年も演奏を通して繋がれますことを、とても嬉しく思っております。この度はどのような映像とプログラムで美しいピアノ音楽の世界へ皆様をお連れ出来るかと、今からイメージをしつつ考えております。心豊かなアドベントシーズンを、一緒に音楽と共に迎えましょう！

月下 愛実 MANAMI TSUKISHITA

●プロフィール

北星学園女子高等学校音楽科卒業。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース首席卒業、同大学第7回定期演奏会にて、ブーランク作曲の合唱曲「グロリア」ソリスト、学内ソロ選抜コンサート、卒業演奏会等出演。その後武蔵野音楽大学大学院音楽研究科ヴィルトゥオーゾコースに進学、首席修了。2017年度武蔵野音楽大学管弦楽団ソリストオーディションに合格し、東京オペラシティ・コンサートホールにて指揮者の時任康文氏と共演。2018年大学院在学学生選抜コンサート出演。第69回全日本学生音楽コンクール北海道大会大学の部第1位、第31回ハイメ音楽コンクール第1位、令和2年度札幌市民芸術祭大賞、オーディエンス賞等受賞。第58回日本演奏連盟新進演奏家育成プロジェクトオーケストラ・シリーズのオーディションに合格し、札幌交響楽団、指揮者の現田茂夫氏と共演。これまでに《ドン・ジョバンニ》《ラ・ボエーム》などのオペラに出演。北海道二期会準会員。2021年ファーストソロアルバム《Singing I go》をリリース。現在は北海道を中心に演奏活動、賛美のミニストーリーを行っている。



●ご本人からのコメント

心を込めて、喜んで、賛美させていただきます。聴いてくださる皆さんにアドベントの光が届きますように！

加藤 麻衣子 MAIKO KATO

●プロフィール

エリザベト音楽大学演奏学科パイプオルガンコース卒業。東京藝術大学大学院修士課程音楽研究科修了。トゥールーズ高等芸術院にて国家演奏家の資格を得て卒業。2010年、ジャン・ルイ・フローレンツ国際オルガンコンクール優勝、フランス芸術院よりグランプリ受賞。2013年、ジルバーマン国際オルガンコンクールファイナリスト。同年、グザヴィエ・ダラス国際オルガンコンクールにて第3位並びに聴衆賞受賞。現在、ルーテル学院中学・高等学校オルガニスト。活水女子大学非常勤講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。



●ご本人からのコメント

信仰と愛が試されているかのような感染症との戦いの日々の中、皆さまにオルガンの音色をお届けできる機会に恵まれたことを心から喜んでおります。今回は、バッハの時代のオルガン造りを再現する質の高さでヨーロッパでも定評のある、ベルンハルト・エツケス氏の楽器をお聴き頂きます。くつきりとした輪郭の中にも、芳醇さと鋭さを絶妙なバランスで兼ね備えた音色をお楽しみください。喜び、慰め、癒し、賛美、様々なメッセージを含んだオルガン音楽を通して、皆さまの心が神様の御心に包まれる時間になりますように。そして、一人一人の思いが世界に向かう架け橋となれば幸いです。

スティーブ・サクソ STEVE SACKS

●プロフィール

ジャズのサクソ&フルート・プレーヤー、またハーバード大卒音楽理論学者としてスタート。ジャズ、ラテン音楽やブラジル音楽の豊かさや多様性を音楽活動の中心に置いて、40年以上プロとして活動。5か国語が流暢で、20年に及んでニューヨークのジャズシーンで活躍して来た。小野リサ、ティト・ブエンテ、デューク・エリントン・オーケストラ、アストリッド・ジルベルト、パキト・デリヴェラ、ポール・サイモン、マリーン、森山良子、南佳孝、ザ・テンペレーションズ、デンマーク国立ラジオ・ジャズ・オーケストラ、香港交響楽団などと共演、録音または編曲を担当。日本のあらゆる教会やクリスマス音楽イベントで演奏。ソロCD「First Dream:初夢」「Look To the Sky」と「Christmas Presence」をリリース。リーダー・バンドのラテン・ジャズ・ユニットMambo Innは10年以上、東京や全国ツアーで演奏活動を続け、CD3枚「Mambo Around the World」「Five Brothers」と「Good News」をリリース。



●ご本人からのコメント

素晴らしいミュージシャンの仲間たちと楽しく演奏するのは、見ていただく皆様とクリスマスのグッド・ニュースを分かち合うのは、幸せそのものです！

安音 めぐみ MEGUMI ANNEN

●プロフィール

3歳よりピアノ、10歳より作曲、13歳よりフルートを始め、滋賀県立石山高校音楽科を経て、同志社女子大学音楽学科卒業。在学中よりヤマハ音楽院ピュラーコースにて、編曲や作曲を学び、積極的に音楽活動始める。2004年に上京、ゴスペルピアノに出会い、ロサゼルス、翌々年オランダで行われたOh Happy Dayの作者エドウィン・ホーキンスが開催するMusic & Arts Love Fellowship Conferenceに、Japan mass choirのピアニストとして参加した後、Tokyo Voices of Praise他、都内複数クワイアのピアニストを務める。フルートでは、ソロ、室内楽、チャペルコンサートを始め、みなとみらい大ホールで行われた、日本赤十字財団主催「横浜チャリティコンサート」のオーディションに合格し出演。ホテルオークラロビーコンサートレギュラー出演。また、ジャズやライブ等活動、アーティストのサポートも行う。現在演奏活動の傍ら後進の育成にも力を入れ、グレース音楽教室主宰。



●ご本人からのコメント

みなさん！！ こんにちは！
フルート奏者の安音めぐみです。ワクワク楽しくなるクリスマスソングを用意しました！
一緒に神様のご降誕をお祝いしましょう！！

HanaWuta ハナウタ

●プロフィール

シンガーのIzmiとギタリストのMichio Ohgaによるポップユニット。Rock・Blues・R&B・Soulといった多様なジャンルから受けた影響を独自に融合し、クールで心地よい音を追求するべく、2013年にアコースティックユニット Izmi & Michioとして活動を始める。



●ご本人からのコメント

こんにちはHanaWutaです。今年もJELAのオンラインチャリティコンサートに参加することになりました。皆さんもこの2年ほど多くの変化を経験したことと思いますが、私たちにとってもそうでした。いろんなことが変化し、移り変わっていく中でも決して変わらないものに心を向けて、演奏したいと思えます。ギターと歌のアコースティックライブ、ぜひリラックスして楽しんでもらえる嬉しそうです。

JELA公式YouTubeチャンネル アクセス方法

YouTubeで検索

JELA チャンネル

または
QRコード
から



インドのパートナーについて知ろう!



2022年2月にオンラインで スタディーツアーを開催します

JELAはインドの公益団体「ルーテル・ワールド・サービス・インディア・トラスト (Lutheran World Service India Trust=LWSIT)」と協力して、2009年からコルカタ市内のスラム街に住む女児たちに食料や教育を提供する支援を行なっています。西ベンガル州の州都であるコルカタはインド有数の都市ではありますが、同市にはスラム街が多数存在しており、孤児、ストリートチルドレン、スラム街の子どもたちを対象に「チャイルド・ケア施設 (Child Care Institution=CCI)」をLWSITが運営し、子どもたちが学校に通い貧困から抜け出すための支援をしています。施設には寮があり、少女20人 (6~14歳まで) が生活しています。

JELAでは2022年2月に、LWSITと共同で「インド・コルカタ・オンライン・スタディーツアー (仮)」を開催します。インドのことやLWSITの活動を学び、LWSITのスタッフや施設で暮らす少女たちと交流するプログラムも計画しています。

インターネット環境があれば、参加費無料でご参加いただけます。開催概要が決まりましたらご案内いたしますので、参加をご希望の方は、jela@jela.or.jpまでメールでご連絡ください (件名にオンライン・スタディーツアー参加希望の旨ご明記いただき、ご氏名・電話番号をお知らせください)。

またオンライン・スタディーツアーの情報は随時、JELAホームページ、ニュースブログ、各種SNSでもご案内いたします。JELAの海外パートナーを知り、国際協力や教育支援について理解を深める良い機会となりますので、ぜひご参加ください。

支援者一覧

(2021年6月1日~9月30日)

(順不同・敬称略)

青木孝士/阿部光成/尼嶋治/安藤淑子/安藤裕三/井藤育子/井上秀樹/太田立男/大谷忠雄/大塚真佐子/大嶺愛持・裸覇武・十六夜/小川和子/加藤俊輔/河野久美子/京谷信代/小暮修也/小坂敦子/古庄理世/小長谷ヤヨコ/小丸吉展/小宮俊作/篠崎智恵子/杉山美紀子/鈴木春江/高橋ふく子/田中栄子/田中淑子/辻裕子/寺澤陽子/東郷優子/中山純郎/中山玲子/西垣親子/西川嘉久美/西立野園子/芳賀美江/原怜子/原口恵子/原田靖彦・裕子/東貴也/平林洋子/廣幸朝子/福嶋知恵子/福地明子/古屋四朗/保浦晴也/保坂和子/星野幸子/堀田裕子/光延和賀子/南節子/南谷なほみ/牟田青子/初山昭恵/森下真樹/八坂由貴子/安みぎわ/山県順子/山口敏子/山澤慧/山田美美子/山本了/若原奇美子/渡辺聡/小城ルーテルこども園/JELC玉名教会/榎太陽堂薬局

ご支援ありがとうございます。
匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

Follow us!



@jela.workcamp @jelamission @jelamission @431dncf

編集後記

「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう」。生まれつき足が不自由で神殿の参詣者から施しを受けていた人に向けられた、イエス・キリストの使徒ペテロの言葉です。JELAは今年9月に財団へ移行しました。財団ということは「それなり」に金銀があることになるので、上記の言葉は一見JELAには当てはまらないようにも思えます。しかし、JELAが数十年取り組んでいる種々の公益事業だけでも、金銀がいくらあっても解決できる規模ではありません。世界のあらゆる問題の解決を金銀に頼ろうとする限り、私たちは暗中模索の付け焼刃を繰り返すのでしょうか。聖書は、この世界に対して、金銀ではない解決策を提示しています。ペテロは施しを求める人に、金銀ではなく彼が持っているもの、福音を伝えました。(ことの顛末が気になる方は使徒3:6をお読みください) シンプルで愚かで遠回りに思えても、それが全てに対する問題解決方法なのだと、「それなり」の財をもつ団体こそがブレずに世に伝えていく、そんな必要を感じています。(渡辺薫)



国連で合意された17のグローバル世界共通の目標をSDGs (Sustainable Development Goals: エスディー・ジーズ) といいます。JELAはSDGsに賛同し、よりよい国際社会の実現に貢献しています。

JELAの活動にご支援を!
各種献金のご送金は下記をご利用ください。



ホームページからクレジットカードでご寄付いただけます!

JELA

キリストの愛で隣人に仕える

一般財団法人 JELA

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
TEL:03-3447-1521 FAX:03-3447-1523
EMAIL:jela@jela.or.jp WEBSITE:www.jela.or.jp
郵便振替口座番号:00140-0-669206
加入者名:一般財団法人JELA